

あけみ
なまけ
うさぎ
2025



vol.275 12



特集

令和7年産
農畜産物を振り返って

第1回北見たまねぎまつり
オニオンスープまきの様子
(紹介は2ページです)



季節の薰り



寒締めちぢみほうれん草、順調に生育し収穫開始

寒さが厳しくなってきた11月下旬、
きたみらい管内では9月上旬に播種
された寒締めちらみほうれん草が順
調に生育し、順次収穫を開始しまし
た。

訓子府地区大谷で寒締めちぢみほ
うれん草を174坪作付けしている鍋嶋周滋さんのハウス
では、9月3日に播種が行われ、11月25日に収穫が始まりました。

収穫にあたって鍋嶋さんは「今年度は重大な病気もなく、大きく生育してくれ、成功と言える出来になった。寒締めちぢみほうれん草は甘くえぐみが少ないことが特徴のため、しゃぶしゃぶやみそ汁で食べるのがおすすめ」と話してくれました。

当JA管内では、13戸が70アールを作付けしており、収穫作業は12月まで続く予定です。

表紙紹介

北見玉ねぎの魅力満載のイベントを初開催！

「11（い）02（オニオン）」の語呂から「北海道たまねぎの日」と定められていました。11月2日、北見市では「第1回北見たまねぎまつり」がサンドーム北見で開催されました。日本一の玉ねぎ産地として知られる北見市の魅力を発信しようと、㈱ロジカルや㈱グリーンズ北見などで構成する実行委員会が主催し、オホーツク農協連やオホーツク管内のJAが後援しました。

会場では、1袋100円の玉ねぎ詰め放題や蛇口から出るオニオンスープの試飲体験など、玉ねぎに関する催しが行われました。さらにたまごロ（玉ねぎのコロッケ）の大食い王決定戦や、1人によるスティックタイプのオニオンスープまきなど、ユニークな企画が目白押し。大勢の来場客で賑わい、盛り上がりを見せました。

当JAは販売ブースで玉ねぎや加工品を販売。担当した当JA企画開発グループは、「このようなイベントを通じて子どもたちが地元の玉ねぎにより愛着を感じてくれた」と話しました。

同実行委員会は、「生産量日本一の北見玉ねぎを、今後も地域全体でブランディングに繋げていきたい」と語りました。



▲当JAの販売ブース

特集	
令和7年産	2
農畜産物を振り返って	4
○季節の薰り	2
○表紙紹介	2
「北見玉ねぎの魅力満載の イベントを初開催！」	2
○JJAトピックス	10
○ほのぼの広場	12
・なかよし夫婦 ・記念の一枚	12
○みらいプロジェクトチャンネル	13
○JJAからのお知らせ	14
○おひさまサラダクッキング	20
「サトイモと鶏肉の みそグラタン」	20
「サツマイモとレンコンの ピクルス」	20

農産物を振り返って

令和7年も早いもので残り一ヶ月を切りました。今年は、夏の酷暑により高温干ばつで大きく影響を受けた作物がありました。一年を振り返り、主要農畜産物について各生産組織の代表者より総括していただきました。

水 稲 安定供給の責務を 果たしたことによる堵 きたみらいもち米振興会 会長 福田 堅一

果たしたことによろしく



本年を振り返りますと、5月中旬より田植えが始まり、最盛期の5月26日以降は天候も良く、作業は順調に進み、気温も高く経過したことから活着も良好でした。生育期間を通じ、平年より気温が高く日照時間もやや長く経過したことから生育は順調で、幼穂形成期も生育状況に応じた適正な深水管理により不稔の発生は少なく、出穂・開花も例年になく早く、7月下旬の猛暑で生育はさらに早まり8月上旬には黄化が始まりました。

過去に経験のない早い仕上がりから、他の収穫作業との競合が避けられないなか、収量や品質に不安をもつて、刈遅れにならないよう、従来の

麥類

猛暑と干ばつの影響で 細麦粒が多発し製品歩留りの低下



率的な刈取り作業によるものと厚くお礼申し上げます。

さて、本年産の小麦においては、開花期以降の猛暑と干ばつの影響から成熟が進み、平年を大きく上回る早い刈取りとなりました。秋小麦は7月16日から始まり、春小麦は7月31日に刈取りが終わるなど、気候の変化が麦類の生育に大きく影響したと実感する年になりました。今後、気候変動の中でも品質の良い麦を生産するために、生産者の方々にも適切な肥培管理をお願い申し上げます。

刈取り期間における毎日開催の小麦操業委員会では、衛星リモートセンシングを活用した適期刈取りとあわせて、日々の効率的な刈取り・輸送・荷受け・施設操業を組織全体での共有認識とし取り進めて参りました。各地区の振興会役員及び生産者の方々にご理解を賜り重ねてお申し上げます。誠にありがとうございました。

小麦の輸送においても物流2024問題や働き方改革など輸送トラック台数の確保が難しいなか、今後更なる厳しい環境が予想されるため、ホクレンG-I-Sスマートフォンで位置情報を把握し、輸送支援システムの活用により、

刈取調製を無事
に終えることが

握りが文部省的な運行とあれせて荷
伝票のペーパーレス化に向けてNF
カード(云票清賃)二枚の荷役方式

豆類

「顔が見える豆づくり」を目指して



つてみますと、豆類のは種作業は平年並みに進み、その後比較的天候にも恵まれ、出芽期も平年並みに推移しました。出芽後、気温は高く推移したことで生育は進み、開花期は平年より1週間ほど早く迎えました。大豆は着莢数が平年の2割増しで成熟が進み、収穫期は天候に恵まれたことから、乾燥も良く、概ね10月中旬に終了しました。入庫状況で大粒2等向け原料が約91%と平年に比べても良品質の大豆に仕上がり、収量も良好で、5・4俵／10aとなり、豊作年となりました。

小豆も着莢数は2割増しで生育し、成熟期は平年より10日早く迎えました。大豆同様に収穫期は天候に恵まれましたが、二次成長からの未熟粒混入は少ないものの、青莢等の混入も多く、豆色も昨年より劣る傾向となり、小粒から収量も4・0俵程度と平年を若干下回る結果となりました。

高級菜豆は夏場の高温により花落ちは多く、平年より少ない着莢数で、収穫作業は遅れて始まりました。収量は大福4・0俵／10a、虎豆4・0俵／10a、白花豆3・5俵／10a、紫花豆3・0俵／10aで平年作を下回る見込みです。

豆つ頃て本のみ年をはますと、道業

じ実需へ確実に流通した
既光地の土産物実需の大

供給力を確保し実需へ確実に流通したことや、一部観光地の土産物実需や大手メーカーで堅調に販売が推移したことから、消費量は前年から増加しております。大豆においては国産・外落札は軟調で、荷動きは鈍い状況が続いております。

「きたみらい豆類振興会」としては栽培技術及び販売先との関係構築向上を図るために、各専門部会を中心して活動をしておりますが、特に近年、作付面積・戸数が急拡大しております。「大豆」については各地区から専門部会委員を選任し、本年においては道外ユガード・全農を訪問し、大豆をめぐる情報交換やオホーツク管内大豆の求査を確認して参りました。小豆・高級豆部会においては鹿児島の老舗百貨店「山形屋」の名物であります「北海道物産展・北見デー」において高級豆類の店頭販売促進及び小豆の大口ユガードへの訪問を行なうなど、実需先との「顔が見える関係」構築に向けて取り組んでおります。

各種豆類の作付面積維持と品質の向上を基本に、さらなる「きたみらい豆類」のブランド化に向けた組織協議と環境変化に対応した栽培技術を検討して参りますので、今後とも会員皆様のご理解とご協力をいただきますよう宜しくお願ひ致します。

影響が懸念されましたが、胴割粒、着色粒も殆ど無く、倒伏による発芽粒が一部見られたものの、高い品質歩留まりを確保でき、収量もきたみらい平均で581kgとなり、水稻面積が減少するなか一定の生産量を確保でき、安定供給の責務を果たすことができたと安堵しております。

北海道もち米は、契約栽培の取組みを主軸に、安定した生産・販売体制を続けておりますが、昨今の主食用米の需給緩和や米価高騰による外国産米へのシフトなど、需給動向や市況など情勢は刻々と変化しております。産地としては高い品質で安定的な生産供給を行なうことが、実需から高い信頼と評価を得られ、価格の維持に繋がるものと考えております。

振興会では、令和8年産より施設再編集約を行ないますが、操業に支障がないよう引き続き協議を重ねて参りますので、皆様の発展的な意見を賜りたいと思います。

最後に、日々ご尽力頂いております生産者の皆様、JA・各関係機関

J A きたみらい産もち米生産実績（きたゆきもち）

	10a反収	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
令和7年産	581kg	1等	95.5%	1.4%	3.1%
令和6年産	625kg	1等	95.3%	1.4%	3.3%
令和5年産	604kg	1等	95.2%	2.0%	2.8%
令和4年産	618kg	1等	91.9%	2.7%	5.4%
令和3年産	660kg	1等	90.2%	4.9%	4.9%

の皆様に感謝申し上げるとともに、
今後も更なるもち米の発展にご協力
をよろしくお願い申し上げます。

特集

令和7年産 農畜産物を振り返って

会員皆様方の日々の肥培管理や長年の土づくりのご努力に敬意を表すところですが、平均反収は4・2tと合併以降では平成25年産に次ぐ不作の年産となりました。品質面においては猛暑の影響もあり、極旱生品種で市場到着後に傷みが発生し、大変大きな課題を残しました。次年度も同様の事態となるととなります。引き続き供給産地と

定植後は6月上旬までは適温適雨により順調な生育経過となりましたが、その後約1か月間雨が降ることなく、生育環境は一転して干ばつとなりました。また、昨年に引き続き猛暑日が続き、7月24日には39°Cを記録しました。

本年を振り返りますと、移植作業は4月中旬より開始しましたが、移植期間中に降雨・降雪たが、移植期間には終了となりました。

本年を振り返りますと、移植による作業停滞もあり、概ね5月中旬には終了となりました。

玉ねぎ
「安全・安心・安定」の玉ねぎを目指して
きたみらい玉葱振興会 会長 加藤 英樹

風害や霜害の被害等も比較的少なかつことにより、生育は順調に経過しましたが、6月下旬から7月下旬まで高温干ばつの影響で生育は停滞し、8月11日には上常呂・訓子府地区を中心とした方々にはお見舞い申し上げます。昨年多発した「褐斑病」については、防除の徹底など、生産者の献身的な取り組みなどにより、ある程度は抑えられたものの干ばつの影響で3トウムシ・シロオビノメイガが多発し、一部ではシロイチモジヨトウの発生が見受けられるなど、収量は平年を若干下回る58t/ha程度が見込まれており、糖分については温暖化などから、11月中旬現在15・7%と平年値(16・2%)を下回っている状況にあります。

輸送につきましては、早期出荷が10月10日から、全地区輸送が10月18日からとなりました。

輸送につきましては、早期出荷が10月10日から、全地区輸送が10月18日からとなりました。運転手不足に加え、他業種と取り合いになるなど昨年より厳しい状況があり、輸送効率を上げるなどの対応が急務の課題となつております。

また、昨年は北糖地区管内においてん菜原料の輸送時に大きな事故があり、安全性の観点から下周り作業員を廃止させていただきました。生産者の皆様にはご不便をおかけする場面がござるかと思いますが、引き続きご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

てん菜をめぐる情勢については、国内における砂糖消費の減退や交付対象数量の段階的な減算、資材高騰によるコスト高、温暖化や病害虫の発生による糖分低下など、あらゆる面で先行きが不透明で不安な状況が続き、作付面積減少に歯止めが掛かっていないのが現状です。しかし畑作において、てん菜は適な輪作を維持する上で重要な基幹作物であることから、振興会としても作付面積維持を最重要課題と捉え、糖業者に支援を要請、相互に協力し合つての「作付面積維持支援事業」を昨年に引き続き実施する運びとなりました。生産者の皆様には支援事業にご理解いたしました。面積維持に向けた協力をお願ひ致します。

振興会事業としては、近年高温が続くなが、環境の変化に対応した技術確立に向けて各地区・地域において「栽培技術講習会」を開催し、てん菜における「輪作体系維持」の重要性と病害虫対策を実施し、高温に負けない技術構築に向けて引き続き取り組んで参ります。

てん菜

きたみらいてん菜振興会 会長 村上 孝幸

振興会としては引き続き、生産者をはじめ、てん菜に関わる各関係機関と一緒に組んで参りますので、次年度以降も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後に、生産者をはじめ、輸送に関わる連絡員や立会人、関係者全の方々に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。



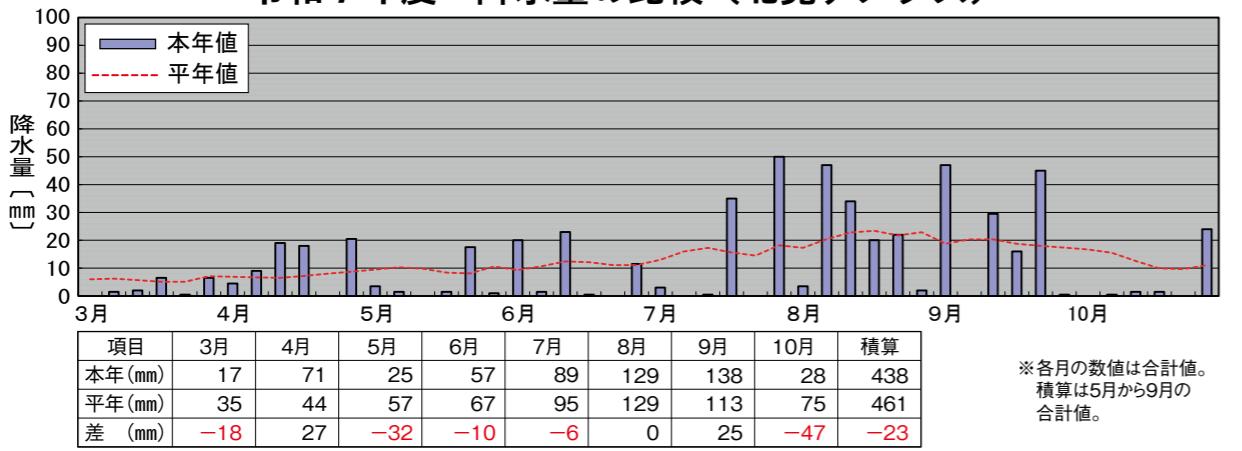
様のご理解とご協力をお願いするとともに次年度も皆様に実り多い年となることをご祈念申し上げます。

J A きたみらい産 てん菜

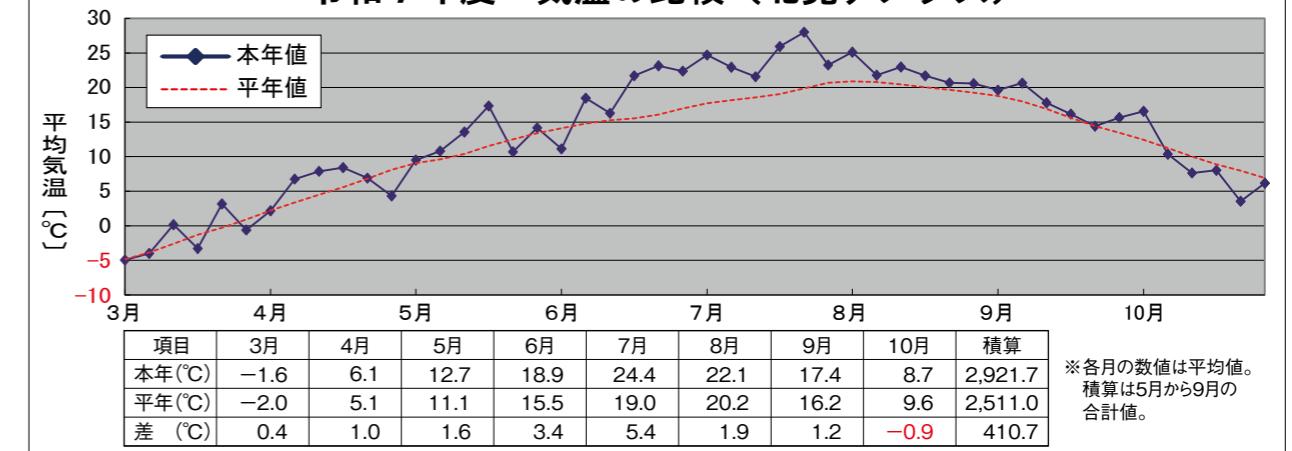
	作付面積	ha収量	糖分	ha産糖量
令和7年産見込	2,733.43ha	56.72t	15.8%	8.9t
令和6年産実績	2,759.43ha	64.09t	15.6%	10.0t
令和5年産実績	2,946.44ha	57.30t	13.6%	7.8t

令和7年産見込は11/30現在値より

令和7年度 降水量の比較 (北見アメダス)



令和7年度 気温の比較 (北見アメダス)



がストップする学校の夏休み期間をめがけ「なつやすみるく大作戦」と題した取り組みを実施し、また、昨年に引き続き東京にあるM-LK AND HOKKA-DO-TOKYOにてきたみらいフェアを実施し、「きたみらい牛乳」を用いた料理の提供や飲用乳・アイスクリームの販売などのPR活動を展開しました。

今後の酪農環境はまだまだ予断を許さない状況にありますが、あの苦

肉用牛



令和7年は、春先からの気温の変動が大きく、夏場には高温と少雨の日が続くなど、気象条件に恵まれない一年となりました。その影響で粗飼料の生育にもはりつきが見られ、1番草はおおむね順調に収穫できたものの、2番草は天候不順の影響を受け、収量・品質ともに厳しい結果となりました。飼料確保に頭を悩ませた方も多かつたことと思います。そ

「きたみらいフジノエ」として
胸を張ることのできる和牛作り

市場の不安定さなど、経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、それでもきたみらい地域では繁殖成績の向上や飼養管理技術の見直し、各種事業を活用した牛群改良のスピードを速めるなど地道な努力が積み重ねられております。今年は特に、若手や後継者の皆さんが積極的に研修会に参加し、新しい知識や技術を学ぶ姿が多く見られ、きたみらい和牛の未来に明るい希望

その後、5月後半はやや低温気味に推移しましたが、初期生育は概ね順調に進みました。しかし、6月下旬より連日30℃を超える異常な高温が続き、降水量も平年より少なく、高温干ばつの状態が7月中旬まで続きました。この影響で作物の生育は停滞し、晚生品種を中心に生育不足が多く見られました。7月中旬には待望の雨が降りましたが、前進栽培は水分不足が肥大に大きく影響しました。

販売環境については、長崎産の出荷時期の後ずれや関東近在産地の出荷が重なり、在庫が増加し市場は低迷しましたが、7月中旬以降は解消となり、高値でのスタートとなりました。一方、高温少雨の影響で前進栽培は小玉傾向となり、昨年に引き

本年の融雪は順調に進んだものの、4月中旬より不安定な天候が続き、4月末の降雪など播種作業は例年よりやや遅れました。

きたみうじ馬鈴

馬鈴しょ

未曾有の高温干ばつへの対策が急務
「ゆめいこころ」の普及拡大に期待！

興会 会長 黒河 潤

続きM・S規格の出荷量が多い状況となりました。一般栽培では土中での発芽や二次生長が確認され、収穫時の選別作業に時間がかかりました。生育遅れや8月の降雨の間隔が短く収穫作業の開始が遅れ、出荷量が減少したことから、品薄の状況が続き市況は堅調に推移しました。

男爵芋の平均粗反収は、全道平均3,210kgに対して北見地区で3050kgと全道的に不作傾向となり道外市場向け販売量は7万8千トンと過去に例を見ないほど少ない量が見込まれています。また、生食・加工品種ともに収量・品質の低下により販売収益の低下が懸念されます。今後も限られた出荷数量ではありますが、厳選出荷に努めて参ります。

新品種「ゆめいころ」については令和7年産は、他品種と比較して収量・品質ともに良好で市場・ユニークの評価も高く、今後はスピード感を持って男爵からの切り替えを進めて参ります。令和8年産は、慣行・こだわり品を含め約400haを栽培する予定となっております。

近年、異常気象の激甚化が見られ

生乳



令和7年度も
自然の力に翻弄
された年となり
ました。春の作
業から1番草の
収穫までは比較
昨年に続き良質
ましたが、それ
で2番草やテン
かなり影響を受
トコーンについて
もの生育丈や
量への影響は否
となりました。
料のやうくらや
飼料設計にも気

耐え忍んだ自負と謙虚な心

口負と謙虚な心 謹議 会長 中島 英樹

酪農情勢についてですが、まだこの時点においても「コロナ禍」という言葉を使わなければならぬのが忌々しいですが、それによる生産抑制により毀損されかけた生乳生産を元の状態に戻し、二度とこの悔しい思いはさせないという強い意志の下、令和7年～9年度の3カ年計画で前年比100%を超える目標で進んでいます。令和7年度は、コロナ禍において目標数量の基本である令和3年度の実績数量に、生産者の生産意向数量をそれぞれ半分反映させる向向きな決め方で得られた目標にそれぞれ邁進しているところです。さらに乳価についても、本年6月より製品向けの値上げ（全用途+3円／

を感じる年でもあります。世代を超えて支え合う「きたみらいのつながり」こそが、この地域の強みであると改めて感じております。

一方で、消費地では国産牛、特に黒毛和牛への関心と信頼が引き続き高く、私たちが丹精込めて育てた牛が多くの人々に喜ばれていることを嬉しく思います。おいしさと安全性にこだわり、地域の自然を生かした和牛づくりを続けていくことが、私たち生産者の誇りであり責任だと感じております。「これからも、「きたみらいブランド」として胸を張れる和牛を育て、消費者の皆さんに安心して選んでいただける生産体制を築いてまいります。

振興会としても、視察研修や家畜市場での情報共有を大切にし、共に支え合いながら前へ進める組織づくりを進めてまいります。厳しい中にも笑顔を絶やさず、地域の力でこの一年を乗り越えたことを誇りに思える年も一歩ずつ着実に前進していくたいと思います。

皆さまのご健康とご多幸、そして来年が実り多く穏やかな年となりますことを心よりお祈り申し上げます

の「ご協力をお願ひ致します。
最後に、本年産が非常に厳しい氣
候の中でも高品質な馬鈴しょを出荷
して下さった会員の皆様に感謝申し
上げ、今後も当振興会へのご理解と
ご協力をお願ひするとともに、次年
度も皆様のご家族が健康で実り多い
年になりますようご祈念申し上げま
す。



▲展示会の様子



▲リフトに乗って操作を学ぶ参加者

営農商品・部品展

小会を開催

卷之三

展示会では当社をはじめ8社が出店。タイヤやグリス、工具のほか、簡易トイレやスチールワックなど多彩な商品が並び、多くの来場者で賑わいました。

また、会場では農作業安全の取り組みとして、フォークリフトの初心者向け講習も開催。フォークリフトの基本操作や注意すべき点などの説明を受け、実際に大コンの運搬やコースの移動などを行いました。

来場者は「様々な商品が揃っており、スタッフの説明を聞きながらじっくり見て回ることができた」「じのように機械の操作などを学べる機会は貴重なのであります」と話し、充実した展示会となりました。

JJAきたみらい女性部置戸支部は11月17日から20日の3泊4日で置戸支部としては初めての道外視察研修を実施し、部員13人が参加しました。



▲当JAの玉ねぎを確認する部員



▲大田市場で集合写真

道外視察研修で大田市場を視察

卷之三



▲市場代表挨拶を述べる 東京新宿ベジフル(株)小島取締役



▲会場の様子

J Aの事業運営に理解を

卷之三

JAきたみらいは11月7日、本
部黒部にて女性正組合員及び正
組合員のご家族の女性を対象とし
た「JAきたみらい女子会」を開
催し、地域の女性61人が参加しま
した。

この取り組みは、JA役員との
懇談を通じて女性の皆様にJAの
協同活動及びJA事業運営につい
てより興味を持つていただきこと
を目的に企画され、今年度で5回

当曰は、当JJAの齊藤専務および藤田総務部長より地区事務所再編について研修が行われた後、豪華なコース料理を頂きながら、役員との意見交換が積極的に行われました。

きたみらい馬鉄藝術振興会は11月11日、ホテル黒部にて市場協議会を開催しました。

同協議会は毎年開催されており、消費地の各市場や加工ユーティリティの皆さん、関係機関及び生産者が集まり消費地情勢や加工情勢の報告を受け、意見交換を行っております。

さらに、市場関係者から生産者に対し「ゆめいこころは男爵と違う魅力があるので意欲的に作付に取組んでいただきたい」と話しました。

馬鈴しょ販売について意見交換を実施

みらいプロジェクトチャンネル

農業の課題調査に関する近況の取組みについて①

vol.53

北海道大学大学院農学研究院 小林 国之

今回は近況報告を2件。まずは酪農経営の実態調査である。ずいぶんと時間が経ってしまったが、8月26~27日にJAに協力をいただきて酪農経営の実態調査を実施した。今年の初め、JAとして酪農経営の実態把握や経営相談の体制について検討しているということで、私が酪農雑誌に寄稿した記事を読んでいただき、意見交換をさせていただいたことがきっかけだった。私自身も2023年から「酪農危機」と呼ばれる事態が起こっている中で、酪農経営の実態を把握する調査に取り組んでいた。そのこともあって、是非ともJA管内の酪農経営の実態調査をさせていただけないと相談して今回の調査が行われた。調査の目的は、酪農経営の実態の数値的な把握はもちろんだが、加えて酪農家の取組みの中から「持続的な酪農」の実現に向けた実践やヒントを見つける狙いがあった。

資材価格の高騰という酪農業界全体を覆っているプレッシャーのもとでも、経営はそれぞれの経営条件を踏まえて克服しようという取組みをしている。こうした取組みをみんなと共有することで、これからの酪農のあり方を考えることができるというのが調査の目的である。

調査は、酪農学園大学の日向先生とともに実施した。さらには、JA北海道中央会の若手職員の方にも参加していただいた。そこにJAの職員の方も加えた混成チームに2日間で6件の酪農家の方に協力をいただき調査を行った。この場を借りてご協力いただいた酪農家の皆様に心よりお礼を申し上げる。来年3月には報告会を予定している。

もう1件は、北広島のFビレッジにあるクボタアグリフロントでのイベントである。様々な研修などで訪れた方も多いのではないかと思うが、アグリフロントは農業をPRするための農業学習施設で「食と農業の未来を志向する仲間づくりの場」とキャッチコピーがつけられている。日常的に様々なイベントが実施されているが、11月6~9日はアグリウィークと銘打って、Fビレッジ全体ともコラボしたイベントが開催された。農業機械の展示のほか、普段は球場のリリーフカーとして使われている車両の試乗なども行われた。

別の機会でつながりがあったことから、そのイベントの1つとしての講演の相談があったのが9月頃であった。企画担当のクボタの方々とどのようなテーマにするか打合せをして設定したのが「アグリのおいしさとたのしさを知ろう ジャガイもと牛乳からみた北海道の農業」。酪農と馬鈴しょ。日常の食生活に欠かせないが、よく考えてみると知らないことも沢山あるというこの2つをテーマとして、農業が抱えている課題とそれを克服しようとする挑戦、そしてその挑戦は農家だけのものではなく「消費者」の皆さんのサポートが必要という内容である。馬鈴しょは品種をテーマとした。消費者が大好きな男爵、メークインはともにとても古い品種であること、それらは気候変動や病虫害には弱いためつくるのが大変であること、でも消費者は馴染んだ品種から「新しい品種」にはなかなか馴染んでくれない。そのうえで、JAで取り組んでいる「ゆめいころ」を紹介し、JAから提供していただいた男爵とゆめいころを試食をしてもらった。参加者に「期待の品種」を味わってもらうことができ、年齢、性別ともに多様だったが、多くの方がゆめいころは「男爵よりも美味しい」という感想も話してくれた。会場はゆでた馬鈴しょの香りとともにとてもよい雰囲気に包まれていた。



▲協同組合運動の創始者であるライファイゼンとの記念撮影

思い出のきたみらい青年部
海外視察研修

北見地区・美里
安斎 大夢さん
(36歳)

Q知り合ったきっかけは?

2年前の夏の街コンで知り合ったのがきっかけです。

Qお二人の趣味は?

佳弘さん…釣りです。
裕美さん…ご当地グルメの食べ歩き、夫との温泉旅行です。

Qこれからしたいことは?

令和8年3月に第一子の女の子が産まれる予定で、とても楽しみです。お世話がとても大変だと思うので夫婦で協力して子育てを頑張りたいです。

Qお互いに伝えたいこと

佳弘さん…普段から農作業の手伝いや家事をしてくれてどうもありがとうございます！
裕美さん…自由気ままに過ごさせてくれてどうもありがとうございます！



なかよし夫婦

協力して子育てを
頑張りたいです

端野地区・協和

会 田 佳 弘 さん(36歳)
ひろ よし み かずひろ さん(36歳)
裕 美 さん(37歳)
ひろ み ゆみ さん(37歳)

記念の一枚



▲協同組合運動の創始者であるライファイゼンとの記念撮影

平成25年にきたみらい青年部でヨーロッパ農業視察研修に参加した際に記念に撮った1枚です。

写真に写っているのはライファイゼンという方で協同組合の父と呼ばれており、世界の様々なところに存在する協同組合、信用組合の仕組みを作り上げた人物です。

視察先でいろんな場所に行って、日本と違う文化に触れてとても勉強になりました。また現在の農業協同組合のルーツを知ることができ、農協組合員の在り方を今一度確認できました。



INFORMATION



当JA管内では11月、大地再生（リジエナラティブ）農業に関するイベントが開催されました。

15日には訓子府町公民館で、

『「君の根は。大地再生にいどむ

▲レイモンド氏（演台右）と荒谷氏（演台左）のトークの様子

人びと』上映会＋トーク＆ディスカッション』が開催され、きたみらい管内外から農業者ら約60人が参加しました。

『「君の根は。大地再生にいどむ人びと』は2021年にアメリカで製作された大地再生農業のドキュメンタリー映画「To Which Web e-long」の日本語翻訳版です。健康な土を再生するための取り組みや農業の取り組みやイベントはこれまで全国約440ヶ所で開催されています。イベントでは映画を観てから、長沼町のメノビレッジで大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と荒谷明子氏のトークが行われました。

レイモンド氏らは、「植物や微生物の自然な流れに任せることで、省コストや省力化の実現に繋がり、楽しい農業になる」など、大地再生農業の意義や魅力を伝えました。最後には活発な質疑応答やディスカッションも行われ、参加者は熱心に理解を深めました。

また、17日、18日には置戸町秋田住民センターで「大地再生の旅2025実践報告会」が開催され、延べ約80人が参加しました。大地再生の旅は2024年から始まった大地再生農業の教育プロジェクトで、メンバーには当JAの組合員も多く加入しています。報告会は同プロジェクトのメンバーがそれぞれの取り組み内容について発表。当JA青年部の廣中諭さんや有馬慎吾さん、昆野将之さん、齊藤要さん、齋藤匠さんも発表に携わり、発表後は会場から多数の質疑や意見が寄せられました。ほかにも北海道大学の小林国之准教授による、イギリスで大地再生農業に取り組む農場の実践事例の紹介が行われ、様々な実践例や知見が共有されました。



▲廣中さんによる大豆の不耕起栽培試験報告の様子



▲小林准教授の講演の様子

きたみらい管内で大地再生農業のイベントが開催

人びと』上映会＋トーク＆ディス

カッション』が開催され、きたみ

らい管内外から農業者ら約60人が

参加しました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根は。大地再生にいどむ

人びと』は2021年にアメリカで製

作された大地再生農業のドキュメン

タリー映画「To

Which Web

e-long」の日本

語翻訳版です。健

康な土を再生する

ための取り組みや

イベントはこれまで全

国約440ヶ所で

開催されています。

イベントでは映

画を観てから、長

沼町のメノビレッジ

で大地再生農業に取り組むレイモンド・エップ氏と

荒谷明子氏のトークが行われました。

『「君の根

INFORMATION

トラクター・フォークリフトの点検整備がスタート

当JA訓子府車輌整備工場では、次年度の営農作業へ向けたトラクターやフォークリフトの点検整備が始まりました。

工場では翌年の営農を安全に行えるよう、農閑期にトラクターなどを預かって点検整備を行う事業を実施しています。令和7年度の点検整備では120台程度のトラクターを整備し、トラブルの未然防止や機械コストの低減に貢献できるように取り進めています。

点検内容は、エンジン・駆動系部品・電気回りなど多岐にわたる範囲の点検を実施します。故障や不良箇所の早期発見・早期対応は機械寿命を延ばすことに加え、ローコストでの修理も可能にしますので、営農コスト低減に繋がります。

また、冬期間の生産者倉庫状況を考慮し、最大40台程度を車輌整備工場及びJA倉庫で翌年4月頃まで保管し、整備を行うサービスも実施しています。

(※倉庫スペースの都合上最大台数に達する前に受付を終了する場合がございます)

点検・保管については受け入れ可能な台数に若干の余裕がありますので、整備をお考えの方は整備工場にご相談ください。



▲トラクターなどの整備の様子

お問合せ:訓子府車輌整備工場 (TEL: 0157-47-4820)



▲当JA加工品のポークカレー



▲株グリーンズ北見のオニオンスープ

このたび、訓子府町の株やまだ葬儀社で当JA加工品をご会葬の返礼品として取り扱うことになりました。株グリーンズ北見の「オニオンスープ」セットと「玉ねぎとチーズが溶け込んだポークカレー」の2種類をご用意しています。地域の皆様の大切な場面に寄り

添い、感謝の気持ちをお伝えするお手伝いができれば幸いです。心を込めた贈り物として、ぜひご利用ください。
価格やお申込みにつきましては、
(株)やまだ葬儀社 (0157-47-4788)へ直接お問い合わせください。

ご会葬の返礼品に当JA加工品の取り扱いを開始

きたみらい給油所お知らせ

JAきたみらい給油所 年末・年始のお知らせ

年内最終営業日 12月30日(火)
本年もご愛顧頂き誠にありがとうございました。

休業日 12月31日～1月3日

1月4日(日)9時～15時の営業時間
※1月4日は営業日のみ、中島・端野・相内セルフは通常営業です。

1月5日(月)通常営業
来年もよろしくお願い致します！

クーポンは毎月発行（次回は広報誌1月号）します。12月のクーポンは1月15日までが使用期間です。
クーポンは下記を切り取るか、スマホなどでQR部分を拡大せず画像保存や印刷をしてご使用ください。

12月の割引QRクーポン
～店頭ガソリン・軽油～
5円/L(税込)引き！

有効期限：12月11日～1月15日
※期間中何度でもご使用できます。
QRコードはスマホ等で画像保存していただき、切り取り線から切り取ってご使用下さい。※拡大・縮小はせず保存して下さい。

●取扱給油所・お問合せ先

◎中島セルフ ◎端野セルフ ◎相内セルフ
TEL: 0157-31-1050 ☎ 0157-56-4112 ☎ 0157-37-2519
◎訓子府セルフ ◎温根湯セルフ ◎置戸セルフ
TEL: 0157-47-4831 ☎ 0157-45-2446 ☎ 0157-52-3869

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。
間違っている部分を左下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



出題・イラスト：酒井栄子



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙か、右のQRコードに答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAX又は応募フォームでご応募下さい。

抽選で6名の方に、JAきたみらいの「玉ねぎとチーズが溶け込んだポークカレー」と「大正金時と鶏肉のキーマカレー」をプレゼント致します。



11月号まちがいさがしの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「2、4、6、9、11」でした。
正解者24名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

・木島幸子さま(訓子府)・斎藤義市さま(相内)・大塚桜清さま(訓子府)
・坂下恭梧さま(留辺蘂)・小林建斗さま(端野)・岩橋椎奈さま(温根湯)
以上の方々には、JAきたみらいの「玉ねぎうま塩」と「白花美人甘納豆」2袋をプレゼント致します。

※12月号まちがいさがしの当選者は、2月号で発表させていただきます。

お 天気に左右された1年、やっと束の間の冬休みになりますね。インフルエンザ大流行との事です。皆さんお体御自愛下さい。

(匿名希望さん)

今年も干ばつや、収穫期の雨など様々なことがありました、無事に今年の仕事を終えましたね。まずはゆっくり休んで、病気にはくれぐれも気を付けながら、来年に向けて体と心を整えましょう!

VOICE 読者の声

おひさまサラダをホームページで閲覧できます!

広報誌「おひさまサラダ」を当JAのホームページで紹介しています。
右側にあるQRコードから閲覧できますので、ぜひご覧下さい。



JAからのお知らせ

INFORMATION

第10回 理事会報告

11月21日、午後1時30分より第10回定期理事会が開催され、報告事項8件、決議事項3件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①財務状況報告について
- ②令和7年度第3四半期決算見込について
- ③信用事業取引における対応状況等について
- ④マネロン等の防止にかかる対応状況について
- ⑤11月1日暴風雨被害報告について
- ⑥令和7年産玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
- ⑦令和7年産玉ねぎ・馬鈴しょの概算金について
- ⑧組合員状況報告について

【決議事項】

- ①規程類の改正について
- ②年末手当の支給について
- ③令和8年度 農業事業推進方針について

当組合ではタブレットでのお取引受付を開始します

タブレット導入により、面倒な書類記入が簡単になりました。ぜひご利用ください。

JAバンクスマイルナビ

タブレットで便利で簡単にJAバンクでのお取引をもっと便利に

タブレット画面で文書が見やすく、簡単な操作ができるとっても便利だそう

JAバンクスマイルナビで、大変だった書類への記入が不要に。タブレットの画面に沿って必要な事項を入力・選択するだけで、お取引の際に同じ内容は自動表示されるため、入力不要です。※

カード持参で自動入力!

キャッシュカードをご持参いただければ、住所等のお客様情報や口座情報が画面で表示され、簡単・便利にタブレット入力が行えます。※

新登場のJAバンクアプリ「プラス」で、手続きもっとラクラクに♪

いつでもどこでも各種手続き、アプリで簡単!

申込・振替 カードローン

現金・各種料金の払込み 住戸・電話番号 計算

まずは、ダウンロードを! JAバンクアプリ「プラス」ダウンロードから

ちょっと待って! そのメール詐欺の可能性があります

JAバンクでは、電子メールによる本人確認は行っておりませんので、本人確認をされる連絡やリンク先はすべてお断りです。

電子メールを経由して、口座番号・確認番号などを聞き出すことは絶対にありません。

電子メールを受信しても絶対にアクセスしないでください。

JAバンクは被害者大防止に向けて、会員の「お問い合わせ」欄に備えています。

JAバンク 北海道

JA SUPER CARRY EVERV 早期予約 取りまとめ

JA特別パッケージ

JA SUPER CARRY EVERV JA特別パッケージ車 (CARRY-SUPER CARRY-EVERV)

CARRY JA特別パッケージ

SUPER CARRY JA特別パッケージ

124.5万円

155.3万円

EVERV JA特別パッケージ

166.8万円

JAホグレン JA JA SUZUKI

SUZUKI

の
軽トラック
軽バンを
ご成約の方には
スタッドレススタイヤ
&スチールホイール
4本プレゼント!

JAグループホーツク管内限定
SCARRY 特装車シリーズ

【期間限定ワンプライス】Safety Support 金太郎ダンプ

金太郎ダンプ 169.0万円

付属品6点セット

【期間限定ワンプライス】Safety Support 金太郎ダンプ

金太郎ダンプ 173.0万円

オホーツク管内農業協同組合

お問い合わせ先：農機自動車G 訓子府町大町158
TEL: 0157-47-4820 FAX: 0157-47-3411

